

東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター

研究年報 第7号 (2010)

平成 21 年度の研究活動について	安藤 清志	1
副作用報告における担当医と企業の因果関係判定の相違度 (1) ゲフィチニブ (イレッサ) の場合	片平 洸彦 小池 盛明 中村 建 中村 喜一郎 八田 加奈子 宮地 典子	5
副作用報告における担当医と企業の因果関係判定の相違度 (2) リン酸オセルタミビル (タミフル) 服用 48 例の場合	片平 洸彦 小池 盛明 中村 建 中村 喜一郎 八田 加奈子 宮地 典子	9
一般市民の「被害者観」・「加害者観」についての研究	細井 洋子	13
自己調整の発達と社会的な適応	久保 ゆかり	35
過去の出来事の想起が抑うつに及ぼす影響	小口 孝司 竹田 葉留美 原島 雅之	39
雑誌記事において「瘦身」はどのような文脈で扱われているか？ —テキストマイニングを用いたタイトルの分析から何が見えてくるか—	鈴木 公啓	47
前科情報と「犯罪」および「犯罪者」イメージ	白井 美穂	53
警備業研究における心理学的アプローチの重要性	田中 智仁	59
意思決定場面における注目情報と決定方略との関連 —携帯電話購入場面を用いた記述式データの分析—	佐藤 史緒	65
シンポジウム		
第 10 回シンポジウム		
「近い未来、遠い未来から—犯罪被害者と加害者、社会を考える—」	細井 洋子	71

講演会	
ピジンスキー教授講演会	77
ストックス教授講演会	91
グリーンバーグ教授講演会	109
2009 年度活動記録	125